

## 令和2年度運営方針として



鹿児島県小中学校事務職員研究会  
会 長 矢 島 康 宏

令和2年度より、前今村敬行会長から会長職を引き継ぐことになりました。力不足ではございますが、本会の円滑な運営に精一杯努めてまいります。何卒、よろしくお願い申し上げます。

さて、この度の新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々、長期療養を強いられた方々、休業等により生活に困窮されている方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

学校においては、感染症予防策への対応、長期休校に伴う学校行事や学習活動への対応、給食費返還等学校徴収金への対応など、私たち事務職員もこれまで経験したことのない状況下で年度末・年度初めの事務を強いられました。会員の皆様のご苦勞も如何ばかりかと存じますが、こうした前例のない事態だからこそ、事務職員のマネジメント力が試されます。情報収集と的確な分析・提言で各学校の特殊解を導いていただきたいと思ひます。

さて、鹿事研は、「学校の教育目標を実現し、子どもの豊かな学びを支援する学校事務」をテーマに掲げて活動します。このテーマは、本県の教育振興基本計画に示された教育基本目標である「あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり」を達成するために、事務職員のミッションとして設定しています。

今年度は、小学校において新学習指導要領がスタートしました。まさにアクティブラーニング元年と言える重要な年であります。冒頭で触れたとおり、その大事なスタートでつまずいた格好となってしまいました。本会は、そのミッション達成のため、研究の歩みをさらに加速させていかなければなりません。会員の一人ひとりが実践者であり研究者であることを意識し、本会の活動を担っていただきたいと思ひます。

さて、鹿事研の活動の大きな柱の一つは、各専門部・委員会活動です。研究部をはじめ、広報部、研修部、鹿児島県学校事務の手引編集委員会、OA研究推進委員会は、各活動の成果を鹿事研会員へ還元していきます。なお、今年度はサポート部員の再編を行い、さらに各専門部・委員会と会員の連携を深めてまいります。

二つめは、研究大会の実施です。鹿事研は、研究成果を外部へアピールする場として、また全国的な学校事務に関する情報を提供する場として、さらに会員相互の情報を共有する場として、研究大会を開催しています。昨年度の第40回記念大会は、鹿児島県教育委員会の後援もいただき大変充実した大会となりました。この場をお借りして、あらためて関係各位に御礼申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染症対応により、全国公立小中学校事務研究大会岐阜大会も8月の開催を中止せざるを得ない状況です。こうした状況を鑑み、今年度研究大会は、日程及び規模を縮小して計画することとしました。どのような形で実施できるのか鋭意検討中ですが、できるだけ早く詳細をお知らせできるよう努めてまいります。

この二つの活動を中心に研究活動を進めてまいりますので、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。また、本年度の鹿事研の課題として、以下のように掲げます。

- 1 人材育成プログラムの開発研究
- 2 業務改善とカリキュラム・マネジメントの研究
- 3 鹿児島県版「学校事務のグランドデザイン Ver1.1」の推進
- 4 望ましい「学校事務の共同実施」の模索
- 5 関係団体（県教育委員会、県連合校長協会、全事研、九州ブロック各県事務研など）との連携